

質問通告・質問要旨一覧表

議会傍聴者用

質問順	質問議員	通告の標題・質問要旨
1	狩野正雄	◎ アライグマの被害対策について 特定外来生物のアライグマが管内で急増しており、本町においても、然別川に住む住民から被害の事例と対策の必要性を聞いた。 農業被害や牛舎、物置への侵入があり、被害対策として捕獲器（箱わな）を設置して捕獲することが出来たが、捕獲器は他にも設置の要望があり回収された。 アライグマの旺盛な繁殖力は近隣町でも拡大していると聞いた。 生息の実態や被害対策の方法、情報の共有化、住民が注意すべき点について伺う。 1 アライグマの捕獲数、農業関係の被害、生活環境の被害。 2 町が保有する捕獲器（箱わな）の数、設置、見回り、捕獲にあたる選任の担当者はいるのか。捕獲にはどのような資格や免許が必要とされるのか。 3 被害拡大を防止するため、近隣町村と協力して集中的捕獲の計画は。 4 農家（住民）が迅速に駆除できる対策や侵入防止に必要なことは。
2	黒井敦志	◎ 脱炭素先行地域に選ばれた鹿追町の方向性について 脱炭素先行地域として鹿追町が選ばれ、地域課題を解決し、町民の暮らしの質の向上と公共施設の長寿命化を実現しながら脱炭素に向かう取組に期待して、町長に伺う。 1 町長としてこの事業に対する期待と思いは。 2 将来的な財政負担の考えは。 3 対象の公共施設が長期間利用できないが、その対策・気遣いは。

質問順	質問議員	通告の標題・質問要旨
3	佐々木康人	◎ 上幌内小学校閉校後の利活用及び今後閉校が予定される小学校等の公共施設の利活用について 2025 年 3 月末に 109 年の歴史を持つ上幌内小学校が、少子化の影響もあり地域と保護者との協議を重ねた上で閉校した。 現在建物・跡地は未利用状態で、地域では上幌内小学校利活用協議会を設置し活用方法を検討している。学校施設は地域の重要な資源であり、地域活性化への影響が大きいと、行政と地域が連携した協議が必要である。次の 3 点について伺う。 1 閉校から半年経過した上幌内小学校の校舎・敷地の維持管理方法と今後の活用方針。 2 将来予想される通明小学校閉校への対応策。 3 既に閉園した笹川保育園、上幌内保育園、通明保育園の現在の利活用状況。
4	山口優子	◎ 熊の出没に対する安全確保と実効性ある対策について 熊の出没により町民の日常生活が脅かされている。より実効性のある対策について、町長の考えを伺う。 1 熊の出没情報をどのような手段で把握し、住民にどう広報しているのか。目撃情報があった際の、猟友会や役場職員の対応体制について現状を伺う。 2 対応可能なハンターの人数確認と危険作業に見合った報酬体系の見直しの検討は。 3 町境を越えた熊出没に対応するため、十勝地域での近隣自治体・ハンター間の連携支援策の検討は。 4 熊の潜伏場所となる藪や雑木林の伐採・整備を町が主導し、土地所有者との協力体制構築は。 5 9 月 1 日施行の改正鳥獣保護管理法「緊急銃猟制度」への対応として、環境省ガイドラインに基づくマニュアル作成、人員確保、訓練実施、保険加入等の準備体制整備。発砲条件が厳格なため、麻醉銃や威嚇弾、電気柵など猟銃以外の緊急対応手段の確保・訓練を行う考えは。

質問順	質問議員	通告の標題・質問要旨
5	川染 洋	◎ 鹿追町は、この町の「価値」を何に求めるか 今鹿追町が直面する人口減少・高齢化・財政難という課題に対し、町の独自性である「らしさ」を明確にした価値創造による持続可能なまちづくりを提案する。 多岐にわたる行政施策の中から町民が求める「大事な価値」を見出し、限られた資源を集中投資することが重要で、町の価値は地域資源（自然、人物、風習、産物、活動、歴史、既存政策）から生まれる「差異」と「意味」にあり、これらを掘り起こして鹿追町の優位性を発揮できる「らしさ」を認識すべきである。 人が住む理由こそが町の価値であり、住み続けたい理由を明確に発信することで定住者増加につながるとし、「鹿追町を生活の地とする根源政策」の必要性を訴える。 次のことについて、町長の所感を伺う。 1 「わが町の価値」政策が何であるかをファーストプライオリティとして検討する考えがあるか。 2 鹿追町のアイデンティティとなりつつある「教育の現場」の更なる活性化を町の価値として位置づけることができるか。